

問合せ先

警備救難部 国際刑事課

専門官 有馬(ありま):密輸担当

不法入国対策官 宮濱(みやはま):密航担当

Tel 03 - 3591 - 6361(内線)5502、5504

直通 03 - 3581 - 1701

平成19年 1月16日

海上保安庁

平成18年における密輸及び密航取締り状況について

～薬物・銃器事犯の摘発件数の増加～

～船員を装う 偽造船員手帳を所持した中国人密航者の摘発相次ぐ～

平成18年における、薬物・銃器事犯の摘発件数は、平成13年以来最多となる22件であり、平成17年に比べ13件増加した。

一方、密輸入の形態としては、貨物船乗組員が、覚せい剤等を身体に巻き付け又は携行して上陸する小口の密輸が認められるなど、その手口は一層巧妙化し、依然として予断を許さない状況にある。

密航にあっては、近年大規模な密航事件が見られず小口化している中、平成18年は、前年に中国人による偽造船員手帳を所持し船員になりすますという新たな手法の事件を摘発したことをきっかけに、中国人が乗船する船舶に対し厳重な立入検査を実施した結果、同様の密航事件を相次いで摘発し、また、我が国の受入ブローカー等の背後組織も摘発している。

平成18年の密輸及び密航の取締り結果は、平成13年以降の本庁、各海上保安本部における密輸・密航専従セクションの設置、外国船舶が多数入港する港を管轄する海上保安部署への国際取締官の配置等、取締体制の強化を図るとともに、外国船舶に対する立入検査の強化、国内外関係機関との連携・協力の推進等の各施策を強力に推進してきた効果が現れてきているものと考えられ、引き続き徹底した取締りを実施していく。

密輸取締り状況

1 薬物・銃器事犯の摘発件数の増加

平成18年の薬物・銃器事犯の摘発件数は22件であり、平成17年に比べ13件増加

2 密輸手口の小口化、巧妙化

平成18年に行われた密輸入事件の形態は、薬物・銃器を乗組員が身体に巻き付け又は携行して上陸する手法

3 薬物・銃器事犯におけるロシア籍船又はロシア人船員の高い関与率

ロシア籍船又はロシア人船員が関与したものは、総摘発件数中の約6割という高い関与率

1. 取締り状況（参考資料「最近における薬物・銃器事犯の摘発状況等」参照）

(1) 平成18年に当庁が関与した薬物の摘発件数（注：海上保安庁が単独又は他機関と合同で摘発した事件の数）は、20件であり、覚せい剤約9.6kg、大麻約12.4kgを押収した。

摘発件数としては、平成17年に比べ、12件増加し、大麻の押収量は最近6年間で最高を記録した。

(2) また、銃器の摘発件数（注：海上保安庁が単独又は他機関と合同で摘発した事件の数）は、2件であり、けん銃2丁、実包791発等を押収した。

2. 特徴（参考資料「平成18年の主要事件概要（密輸）」参照）

密輸の小口化、巧妙化

平成18年中に行われた密輸入事件の形態は、貨物船の乗組員が、薬物・銃器を船内に隠匿し、我が国の港に着岸後、身体に巻き付け又は携行して上陸する方法で密輸したものであった。

ここ数年は、洋上で大量の覚せい剤等を取引きするいわゆる「瀬取り」の手法は認められなくなり、上記のとおり身体巻き付け等による小口化、巧妙化の傾向が認められる。

ロシア籍船又はロシア人船員の高い関与率

薬物・銃器事犯においては、従来からロシア籍船又はロシア人船員が関与した事件数が全体の多くを占めていたところ、平成18年であっても、総摘発件数22件の約6割にあたる14件にロシア籍船又はロシア人船員が関与していた。

また立入検査等により船内から薬物・銃器を摘発した件数は18件であ

ったが、そのうち約7割が居室又は客室から発見されており、形態としてはロシア人船員による乱用目的と認められる大麻所持事件が大半を占めるが、約320gもの大麻を押収した事案もあり、引き続き、ロシア籍船又はロシア人船員による薬物・銃器事犯は、深刻な情勢にある。

・ **ロシア籍船舶又はロシア人船員が関与した薬物・銃器事犯の摘発件数**

年	薬物事犯	銃器事犯	合計	総摘発件数
平成15年	4	1	5	17
平成16年	8	2	10	19
平成17年	7	1	8	9
平成18年	13	1	14	22

参考資料

- 最近における薬物・銃器事犯の摘発状況等
- 最近の主な薬物・銃器事犯摘発の状況
- 平成18年の主要事件概要（密輸）

船舶利用による集団密航取締り状況

1 集団密航事犯摘発の状況

平成18年の摘発は3件、密航者14名、助長者17名であり、平成17年と比較して同件数、人数は密航者5名、助長者16名の増加

2 偽造船員手帳による密航事件が続発

平成18年は、中国人が偽造船員手帳を所持し船員になりすまして密航を敢行する事件が続発

1. 取締り状況

- (1) 平成18年に海上保安庁及び警察が摘発した船舶利用による集団密航事件（2人以上の不法入国者が存在する事件）は3件、密航者（不法入国者をいう）は14名、助長者は17名であり、平成17年と比べ、摘発件数は同数、人数は密航者が5名、助長者が16名増加した。
- (2) 平成18年に摘発した密航者は、14名全員が中国人で、直接中国から来航している。密航者は偽造の船員手帳を所持して船員になりすまし我が国に入国しており、これら密航者が船員になりすましていることを知りながら船舶を運航していた船員を集団密航助長者として摘発、さらに、日本側受入ブローカーも摘発している。

2. 特徴

偽造船員手帳を使用したなりすまし密航

平成18年に摘発した集団密航事件の中には、中国人密航者が偽造の船員手帳を所持して船員になりすまし上陸、その後、我が国で不法に就労等して在留しようとしており、船員もこれら密航者が船員になりすましていることを知りながら自船に船員として乗船させ密航を手助けするという船ぐるみの犯行があった。こうした事件においては、日本側に中国人を中心としたブローカー組織が存在しこれら密航者を本邦で受入れるのみならず、その後の住居、就職斡旋等を担っていたことが判明、関係者を摘発している。また、船員手帳等の偽造組織については摘発に至っていないものの、使用された偽造船員手帳は精巧で同じ特徴の物が複数使用されていたことから、中国側にこれら偽造船員手帳を作成する組織があるものと思料され、密航形態はますます組織化、巧妙化しているのが特徴である。

3．集団密航事件の傾向

近年の船舶による集団密航事件は、過去多発した仕立船や隠し部屋・隠し区画等に大量の密航者を隠匿する形態の大規模な密航事件が見られなくなり、船員が自室等に密航者を隠匿したり、偽造の船員手帳を所持し船員になりすます等小口化し、摘発件数、人員ともに減少している。

この減少の理由としては、外国治安機関による自国での取締強化並びに情報交換等連携強化、警察等国内関係機関と連携した取締りの実施、国際航海船舶及び国際港湾施設でのテロ防止対策の強化等により、水際における監視体制が強化されその効果が上がっているものと考えられる。

しかしながら、平成17年後半に摘発した、中国国内の船員不足を補い国際基準を満たすため、中国人船員が偽造の船員手帳等を行使した事件を契機に、中国人船員が乗船する同様の運航形態の貨物船等への立入検査を強化した結果、平成18年に入り密航者が偽造船員手帳を所持し船員になりすまし本邦に來航、上陸許可を得た後我が国に不法在留しようとしていた事件を相次いで摘発、摘発人員について昨年を上まわった。

また、これら助長船員の取調べにおいて、本件以外にも同様の手口により運航している貨物船等で密航者を本邦へ運んだ事があるとの供述が得られており、今後、小規模ながら偽造した船員手帳を利用して密航を図る等巧妙悪質な事件が増加すると考えられ、これら事犯に対してますます警戒が必要である。

4．不法出国企図事件の発生

近年、我が国に不法滞在している外国人が、一時的な帰国等を目的として正規の出国手続きを経ずに、ブローカーの手引きにより、不法出国を企てる事件が発生している。

こうした事件の手口としては、貨物船やフェリー等に潜伏するだけでなく、最近では、仕立て船によるものも発生している。

また、被疑者の供述から背後組織の関与が伺われ、これら不法出国事犯の更なる発生が懸念される事から、今後とも強力な取締りが必要である。

平成18年に海上保安庁及び警察が摘発した不法出国企図事件は5件、摘発人数41名で、その内36名が韓国人であった。

参考資料

船舶利用集団密航水際阻止状況

船舶利用集団密航者国籍別摘発等状況

過去の主な船舶利用集団密航事例

平成18年の主要事件概要（密航）

最近における薬物・銃器事犯の摘発状況等



1. 薬物事犯の摘発状況

区分		年別	13年	14年	15年	16年	17年	18年
		摘発件数 (注)	10	14	13	16	8	20
押 収 量	覚せい剤		13.8kg 861錠	387.9kg 2錠	1.9kg	109.8kg	0	9.6kg
	大 麻		6.8kg	0.1kg	5.2kg	0.2kg	0.3kg	12.4kg
	麻 薬		8.4kg	5.0kg	0	0.002kg 4,997錠	0.002kg	0
	あ へ ん		0	0	4.2kg	0.0004kg	0	0

(注) 当庁が単独又は他機関と合同で摘発した事件の数

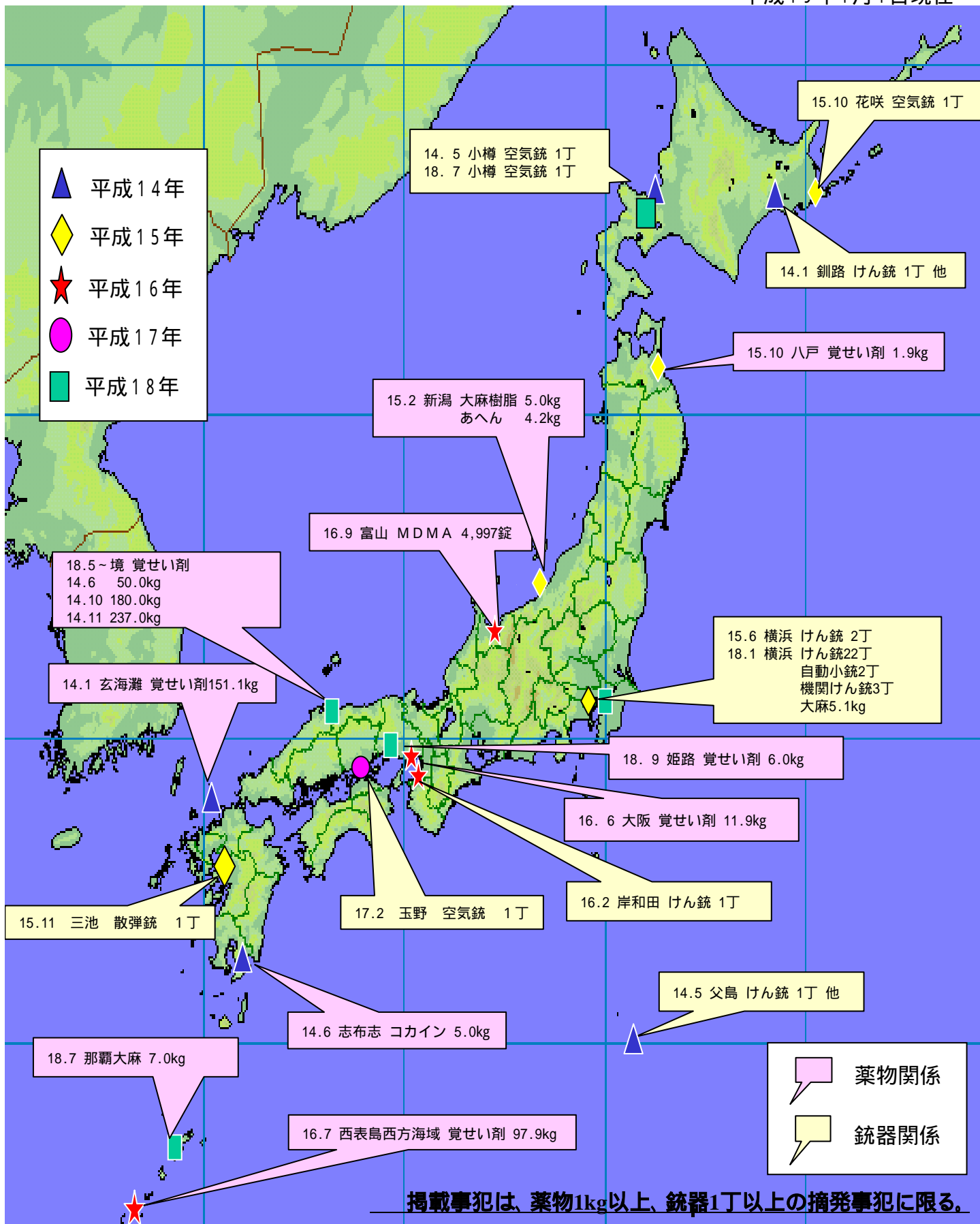
2. 銃器事犯の摘発状況

区分		年別	13年	14年	15年	16年	17年	18年
		摘発件数 (注)	5	4	4	3	1	2
押 収 量	銃 砲(丁)		24	3	4	1	1	28
	けん銃		20	2	2	1	0	22
	実 包(発)		318	58	75	6	0	791

(注) 当庁が単独又は他機関と合同で摘発した事件の数

最近の主な薬物・銃器事犯摘発の状況

平成19年1月1日現在



平成18年の主要事件概要（密輸）

1. フィリピン籍貨物船乗組員等によるけん銃・大麻等密輸入事件

1月、第三管区海上保安本部は、関係機関と合同で、横浜港に入港したフィリピン籍貨物船「EASTERN CHALLENGER」(総トン数3,405トン、フィリピン人25名乗組み)を監視中、同船船員が、暴力団関係者に荷物を渡したところを認めため、職務質問を行ったところ、けん銃1丁、実包220発、プラスチック爆弾6個、大麻約5キログラム等を密輸入していたことが判明、関与した暴力団組長を含む7名を逮捕した。また関係場所の捜索を行い、けん銃1丁、自動小銃2丁、機関けん銃3丁等を発見、押収した。



フィリピン籍貨物船「EASTERN CHALLENGER」



押収物

2. 暴力団幹部等による北朝鮮籍貨物船を利用した覚せい剤密輸入事件

5月から7月までに、第八管区海上保安本部、境海上保安部、国際組織犯罪対策基地は、関係機関と合同で、暴力団幹部らが、平成14年、北朝鮮から覚せい剤数百キログラムを同国籍貨物船「TURUBONG 1」(総トン数298トン、北朝鮮人17名乗組み)を使用して島根県松江市沖の洋上まで運搬させ、小型遊漁船を用いて瀬取りし、密輸入したとして、関与した暴力団幹部ら9名を覚せい剤取締法違反で逮捕した。



北朝鮮籍貨物船「TURUBONG 1」



押収した覚せい剤

3 . 中国籍貨物船乗組員等に係る覚せい剤密輸入事件

9月、第五管区海上保安本部、姫路海上保安署、国際組織犯罪対策基地は、関係機関と合同で、姫路港に着岸した中国籍貨物船「FU FENG SHAN」号（総トン数2,311トン、中国人19名乗組み）を監視中、同船乗組員がビニール袋を携帯して上陸、岸壁上において車両に手渡したのを認めため、職務質問を実施し、覚せい剤約3キログラムを発見したことから、同船乗組員及び車両に乗っていた中国人及び日本人を覚せい剤取締法違反で現行犯逮捕、その後の捜索で同船船内に隠匿された覚せい剤約3キログラムを発見押収した。



中国籍貨物船「FU FENG SHAN」



押収した覚せい剤

4 . ロシア籍貨物船乗組員に係る大麻不法所持事件

11月、稚内海上保安部は、税関と合同で、稚内港に着岸したロシア籍貨物船「BAYKAL」(総トン数752トン、ロシア人18名乗組み)の立入検査を実施中、海上保安官が、機関室プレート下から、大麻約320グラムを発見、押収し、関与した同船乗組員2名を大麻取締法違反で逮捕した。



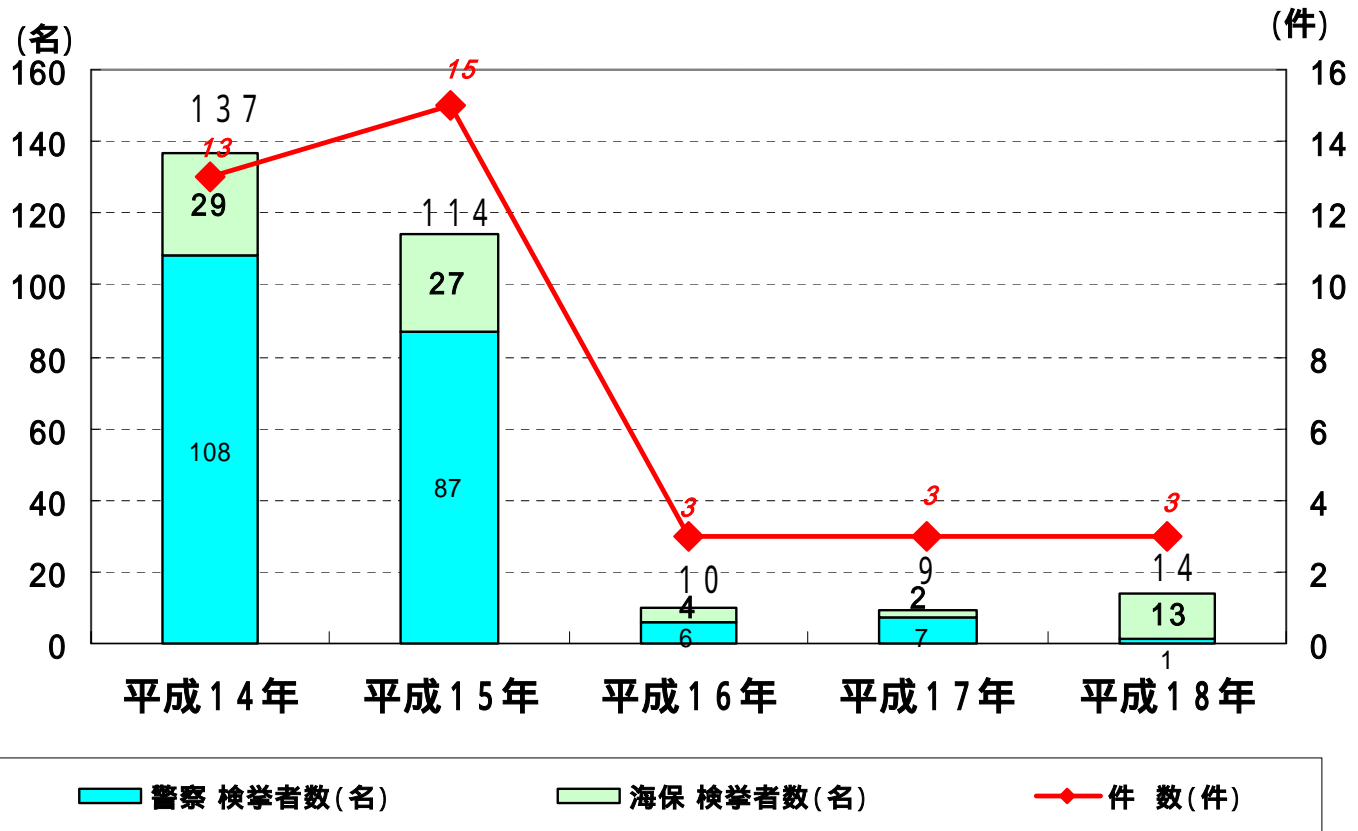
ロシア籍貨物船「BAYKAL」



押収した大麻

船舶利用集団密航水際阻止状況

海上保安庁
平成18年12月31日現在



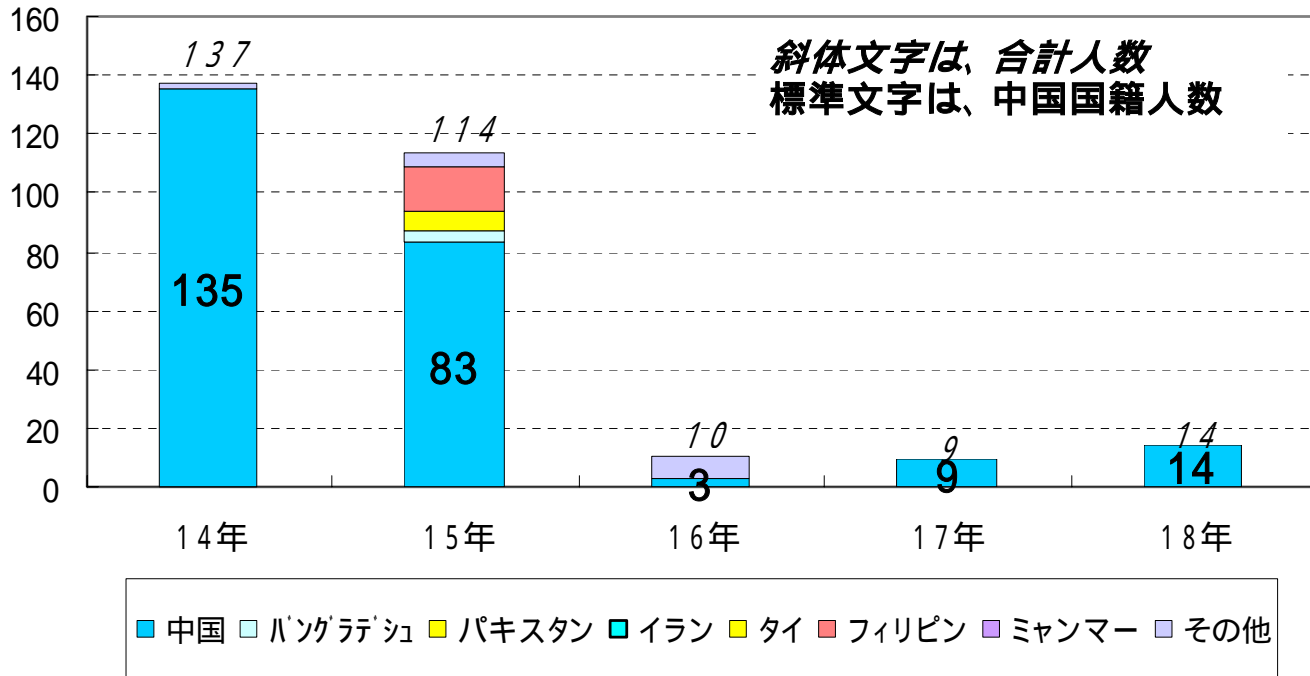
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
件数 (件)	13	15	3	3	3
海保 検挙者数(名)	29	27	4	2	13
警察 検挙者数(名)	108	87	6	7	1
検挙者数 計(名)	137	114	10	9	14

(注) 「集団密航」とは、2名以上で密航してきたものをいう。
警察検挙分を含む。

船舶利用集団密航者国籍別検挙等状況

海上保安庁
平成18年12月31日現在

(名)



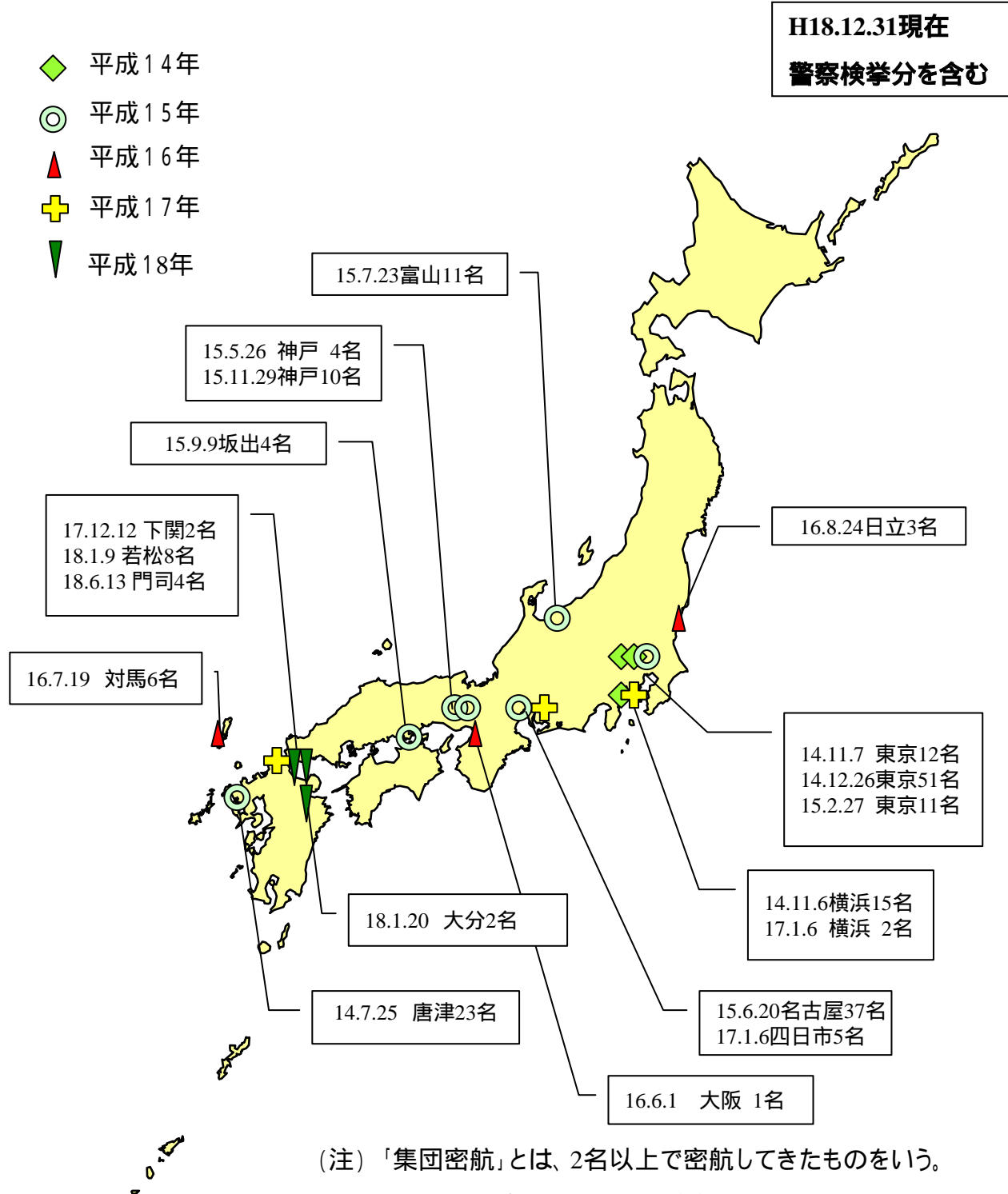
単位:名

	14年	15年	16年	17年	18年
中国	135	83	3	9	14
ハングラदेश	0	4	0	0	0
パキスタン	0	0	0	0	0
イラン	0	0	0	0	0
タイ	0	7	0	0	0
フィリピン	0	15	0	0	0
ミャンマー	0	0	0	0	0
その他	2	5	7	0	0
合計	137	114	10	9	14

(注) その他の国籍内訳(韓国、インド、スリランカ、ベトナム等)
警察検挙分を含む

過去の主な船舶利用集団密航事例

(平成14年～平成18年)



(注) 「集団密航」とは、2名以上で密航してきたものをいう。

平成14, 15年については、密航者10名以上

平成16～18年については、密航者2名以上の事犯を計上

平成18年の主要事件概要（密航）

1. パナマ籍貨物船中国人不法入国事件

2月、若松保海上安部は、門司港においてパナマ籍貨物船「FENG LIAN」(総トン数875トン、中国人15名乗組み)から脱船逃亡した中国人1名の捜査に併せ、F号船員の書類等を精査したところ、15名中7名の船員手帳に偽造の痕跡が認められたため不法入国容疑で逮捕、さらに他の船員7名を集団密航助長容疑で逮捕した。



FENG LIAN



使用された偽造船員手帳

2. グルジア籍貨物船中国人不法入国事件

6月、門司海上保安部は、グルジア籍貨物船「PENG XIANG」(総トン数1,275トン、中国人12名乗組み)の中国人船員4名を偽造船員手帳による不法入国容疑で、残る中国人船員8名を集団密航助長容疑で逮捕した。

更に、横浜において日本での受入役であった中国人ブローカーを逮捕した。



PENG XIANG



使用された偽造船員手帳

参考事件（不法出国企図事件）

3．韓国籍コンテナ船韓国人不法出国企図事件

1月、門司海上保安部は、門司港において警察、税関と合同で韓国籍コンテナ船「SS BUSAN」(総トン数1,912トン、韓国人8人、フィリピン人5人乗組み)の立入検査を実施中、機関室に隠れていた韓国人女性2名を発見、不法出国企図容疑で逮捕した。

また、本件関与のS号船員3名を不法出国企図幫助容疑で逮捕した。



SS BUSAN



発見直後の密航者

4．韓国漁船韓国人籍不法出国企図事件

12月、「漁船が乗り上げ韓国人らしき人間が乗船し沖合に走り去った」との通報があり、佐世保海上保安部等が付近海域を捜索したところ、韓国漁船スヒョン号を発見、同船を立入検査したところ、魚倉に隠れていた韓国人女性2名を発見、不法出国企図容疑で逮捕した。

また、本件関与のスヒョン号船員2名を不法出国企図幫助容疑で逮捕した。



スヒョン号



被疑者